



# 消防千葉

**2019 No.572** 令和元年10月号

令和元年10月1日 編集兼発行人

千葉県市原市菊間 783-1 千葉県消防学校内

公益財団法人千葉県消防協会会長 石橋 毅

TEL0436 (37) 1710

郵便番号 290-0007

ホームページ <http://business4.plala.or.jp/chisyo/>

メールアドレス [chisyokai@bz04.plala.or.jp](mailto:chisyokai@bz04.plala.or.jp)



ブルーフラッグ（山武市本須賀海水浴場）山武支部

## 巻 頭 言

## 「安全・安心を実現するまち」

四街道市消防本部 消防長 西岡 亨



四街道市は、千葉県の北部に位置し、県都・千葉市から8km、首都圏へ40km圏内にあり、千葉市、佐倉市に隣接しています。市域は東西7km、南北9km、面積34.52km<sup>2</sup>です。

昭和30年3月に旧千代田町と旧旭村が合併して、四街道町が誕生した当時の人口は18,014人でした。その後、旭ヶ丘グリーンタウン、千代田団地、みそら団地などの大型団地が誕生、昭和56年4月、千葉県下で28番目の市制を施行し、現在では人口94,228人（平成31年4月1日現在）となり、首都圏近郊の住宅都市として着実な歩みを進めてまいりました。

現在、都市機能の便利さと豊かな自然を併せもつ四街道市は将来都市像として「人・みどり・子育て・選ばれる安心快適都市」を掲げ、快適で安全・安心な街づくりを進めております。

四街道市消防本部は、昭和42年10月、現消防署の前身である消防団常備部を職員10名により発足、その後、昭和46年4月に改組し、消防本部及び消防署を設置しました。以来、その時々  
の社会情勢の変化に対応するため消防力を強化し、現在は、1署2分署体制で119名の消防職員により、市民の安全を確保すべく消防行政を推進しているところです。

近年、団塊の世代の大量退職に伴う世代交代により、従前より懸念されている「ベテラン職員の退職による消防力の低下」を防ぐため、各種研修機会の充実を図るとともに、定年退職者を再任用職員として採用することで、若手職員への知識・技能の伝承に努めております。

一方、消防団は、消防団員の高齢化や担い手不足が進み、団員数の減少に歯止めがかからない状況にあるところですが、消防団に対する期待が高まる状況に反して、消防団を取り巻く社会環境は依然厳しい状況であり、地域防災力の充実強化を図る必要性を考えると、消防団員の活動環境を整備するなど、人員確保を図ることが重要課題であると考えます。

また、災害の大規模化・多様化に加え、少子高齢化の進展に伴う救急ニーズの高まりなど、消防を取り巻く環境は大きく変化しており、この状況に迅速かつ的確に対応していくことが消防に課せられた使命であり、今後も、消防に寄せられる期待をしっかりと受け止め、「安全・安心を実現するまち」を確立するため、住民の生命、身体及び財産を守る責務を全うしてまいります。

## 第25回全国女性消防団員活性化青森大会の開催

第25回全国女性消防団員活性化青森大会が令和元年9月19日(木)午前9時45分から「女性消防団員新時代へ“わ”ど“な”(わたしとあなた)の出会い」の大会テーマのもと「マエダアリーナ(新青森県総合運動公園青い森アリーナ)」で開催されました。

主催者挨拶として林崎理消防庁長官、秋本敏文日本消防協会会長及び大湊一郎青森大会実行委員会委員長(青森県消防協会長)からのご挨拶がありました。

大会は初めに、岐阜県恵那市消防団、茨城県阿見町消防団、岩手県一関市消防団、青森県五戸町消防団による活動事例発表が行われ、引き続き、鹿児島県阿久根市消防団、広島県福山市消防団、愛知県豊橋市消防団による防火防災啓発劇が披露されました。

午後からは、記念講演として、青森山田高校サッカー部監督黒田剛氏による「自ら変わろうとする強い思いが、人生を変える!勝ち続ける組織を作る!」と題した講演が行われました。

続いて、「女性パワーと地域防災」と題するシンポジウムが開催されました。コーディネーターには日本消防協会秋本敏文会長、パネリストには消防庁国民保護・防災部長小宮大一郎氏、青森県おいらせ町消防団熊野恵子氏、茨城県阿見町消防団山本みゆき氏、岡山県倉敷市消防団村井佐恵氏、福岡県久留米市消防団服部昌子氏による活発な意見交換が行われ、地域での女性消防団員の重要性が再認識されました。

希望に満ちた令和の時代が幕を開けた本年、「わどなの出会い」のもと、全国の女性消防団員がここ青森で固い「つながり」をもちました。

東日本大震災から8年半、被災地では、全国からの応援を支えに、復興の道を歩み、元気と笑顔を取り戻してきましたが、近年、従来とは様相が変わった災害が各地で相次いでいます。

そして、これまでの経験から人々の命とくらしを守り、地域の防火防災を支える存在として、女性消防団員に対する期待が一層高まっています。

私たちはこのことを自覚しながら本大会の成果をいかし、「であう、つながる、はじまる」連携の輪を全国で共有し、全国女性消防団員が一致協力して、新たな決意のもと、消防団活動の一層の活性化、地域防災力の充実強化にまい進するとの大会宣言を行って閉会しました。

本県からは、玉井専務理事をはじめ千葉市、習志野市、市原市、船橋市、松戸市、柏市、浦安市、佐倉市、銚子市など9消防団49名と協会事務局が参加しました。



秋本会長挨拶



浦安市展示コーナー



参加者

## 第55回 消防殉職者慰霊祭の開催

令和元年10月25日(金)に「第55回消防殉職者慰霊祭」が、千葉県、公益財団法人日本消防協会の後援により、千葉県消防学校屋内訓練場において、ご遺族、ご来賓、消防関係者など約300人のご参列をいただき、午前10時より、厳粛に執り行われました。

この慰霊祭は郷土防災の使命を果たして、その職に殉じた御霊を慰め、あわせて消防士気の高揚と防災思想の普及を図るため毎年実施しているもので、今年で55回目となります。



小田山副会長の開式のことば



石橋会長の式辞

合祀されている殉職者は、消防組時代29柱、警防団時代11柱、消防本部・消防団時代の50柱、そして消防協力者6柱、あわせて96柱となっております。

式典は小田山消防協会副会長の開式のことばで始まり、慰霊碑に拝礼の後、浦安市消防音楽隊の演奏による国歌斉唱が行われ、司会者の案内により消防殉職者96柱の御霊に対し参列者全員により黙とうをささげました。

その後、石橋 毅千葉県消防協会会長から、「私達消防人一同は、御霊のご遺訓を受け継ぎ、心を新たに団結を強め、地域防災に力を尽くし、安全で安心な社会を実現するため精進努力することを誓います。」と式辞を述べられました。



高橋副知事の追悼のことば



今井県議会副議長の追悼のことば

次に千葉県知事代理として出席された高橋 渡千葉県副知事から「皆様が身をもって示された崇高な志は、今もお三万四千余の消防人に脈々と受け継がれるとともに、最愛の肉親を失われた御遺族の胸中にも大きな誇りとして生き続けているところ存じます。県としまして、防災関係機関と一致団結し、決意を新たに防災対策の一層の充実に努めていくことを、皆様の前でお誓いいたします」と知事の追悼のことばがささげられました。



遺族等の献花の様子

その後、今井千葉県議会副議長及び千葉県市長会会長の清水謙ヶ谷市長及び千葉県町村会会長岩田東庄町長から追悼のことばがあり、最後に、倉田最高名誉顧問からの追悼のメッセージが披露されました。

続いて関係者、遺族の方々から、消防殉職者慰霊碑に献花が行われました。

最後に、遺族を代表して相川久二男様から「これからも故人の遺志を継いで、力強く生きていく所存でございます。」とのお礼の言葉及び石橋消防協会長からのお礼の言葉が述べられ、鈴木消防協会副会長の閉式のことばにより、消防殉職者慰霊祭を滞りなく終了しました。



遺族等の献花の様子



お礼のことば（相川遺族代表）



お礼のことば（石橋協会長）



鈴木副会長の閉式のことば

## 浦安市少年消防クラブ連続第1位！知事表敬訪問

令和元年9月5日（木）、14時40分から千葉県庁本庁舎1階多目的ホールにて、全国少年消防クラブ交流会合同訓練で昨年度（浦安市で開催）に引き続き第1位となり知事表敬訪問が行われました。

当日は、石橋千葉県消防協会長、岡本危機管理部部長、矢崎県議会議員、宮坂県議会議員、関係小学校校長、保護者等が見守るなか始まり、まず初めに、内田浦安市長の挨拶、大川消防団長から出場選手等の紹介、次に選手を代表して宝桃子さんから優勝報告がありました。

森田健作知事からは「連勝おめでとう、この全国優勝の経験は、将来役立つものと思います。これからも頑張ってください。」とお祝いの言葉をいただきました。

知事表敬訪問終了後には、千葉県議会議長の表敬訪問も行われました。

この交流会は、将来の地域防災の担い手育成を図るため、少年消防クラブ員が消防の実践的な活動を取り入れた訓練を通じて他地域の少年消防クラブ員と親交を深めるとともに消防団等からの被災経験や災害への備えなどについて学ぶため開催されました。

今年度は、令和元年7月31日～8月2日の3日間、少年消防クラブ交流会（全国大会）が消防庁主催で徳島県徳島市において開催され、22都道府県の53少年消防クラブが参加しました。



## 第168期 消防職員初任科生卒業式

### 千葉県消防学校

令和元年9月20日（金）、千葉県消防学校の消防職員初任科第168期の卒業式が行われました。4月の入学から6ヶ月、26所属139名の若々しい消防職員が厳しい研修を終了し、消火・救急救助知識及び技術を習得し、それぞれの職場に戻り、第一線で活躍することになります。

当日は、開式のことば、国歌斉唱の後、各人が緊張した面持ちで卒業証書の授与を受け、最優秀賞1名、優秀賞14名、努力賞14名の表彰が行われ、淡路千葉県消防学校長の告示、千葉県知事（代理久本消防課長）・石橋千葉県消防協会長等の祝辞がありました。



淡路学校長告示



知事（久本消防課長）祝辞



石橋会長祝辞

また、前日の19日（木）には、教育訓練の成果を確認するために9時30分から消防学校屋外訓練場において「実科査閲」が行われました。学生集合、通常点検、小隊訓練、救急訓練、体力向上体操、消防操法訓練、救助訓練、最後には火災防ぎょ活動の部隊行動を基本として、救出訓練と一齐放水訓練を実施し、初任科で習得した消防活動・救急活動の集大成として、全員により、火災防御・救急救助技術を披露しました。



## 第38回全国消防殉職者慰霊祭

令和元年9月12日(木)、「第38回全国消防殉職者慰霊祭」が日本消防会館ニッショーホールで殉職者遺族、各県の消防協会関係者等の出席により執り行われました。

昭和23年の自治体消防発足以来、旺盛な郷土愛護と崇高な消防精神に燃え、全国の消防職団員による地域に根ざした防災活動の展開のなかで、残念なことに毎年消防殉職者が発生しており、その御霊は新たに合祀した5柱を加えて5,762柱を数えております。

式では秋本敏文日本消防協会長の式辞、安倍内閣総理大臣、高市総務大臣及び遺族代表の追悼のことば、参列者の皆様の献花が行われた後、江戸消防記念会による鎮魂の歌(木遣り)が披露されました。

千葉県からは遺族の方3名と佐倉市の職員並びに千葉県消防協会常務など7名が参加しました。



式辞を述べる秋本日本消防協会長



安倍内閣総理大臣の追悼の言葉



高市総務大臣の追悼の言葉



遺族による献花



(一社)江戸消防記念会による鎮魂の歌(木遣り)



## 第169期 消防職員初任科生入校式 千葉県消防学校

令和元年10月3日（木）午前11時から千葉県消防学校大講堂において、消防職員初任科第169期の入校式が行われ、24所属122名の若々しい学生が入校しました。

これから6ヶ月間の厳しい研修が始まります。

当日は、開式のことば、国歌斉唱、入校生指名点呼につづいて淡路学校長の式辞が述べられ、来賓として千葉県知事（代理 林消防課課長補佐）、千葉県消防協会長（代理 鈴木副会長）兼巻消防長会長などからの祝辞がありました。

続いて入校生代表からの宣誓が行われ、研修に励んで一人前の消防職員になる旨の誓いが述べられました。



淡路学校長の式辞



知事（林消防課課長補佐）の祝辞



消防協会長（鈴木副会長）の祝辞



兼巻消防長会長の祝辞

## わが町の消防団 ① 柏市消防団

柏市は県北西部に位置し、北は利根川を挟み茨城県取手市・守谷市北西は利根運河を挟み野田市を境に、東に我孫子市との境に手賀沼が広がる東西約18km、南北約15km、面積は約114.9km<sup>2</sup>、世帯数189,779世帯、人口428,667人（令和元年8月1日現在）の中核市です。鉄道は市中央部に位置する柏駅にJR常磐線、東京メトロ千代田線、東武アーバンパークラインが乗り入れ、北部には首都圏新都市鉄道つくばエクスプレスが通っております。道路は、国道6号線と首都圏を環状に結ぶ国道16号線が市中心部で交差し、常磐自動車柏ICを有し交通の要衝となっています。

東京のベッドタウンとして開発が進んだ柏市は80年代以降駅周辺に若者向けの商業施設が次々と開店し県外からも買い物客を集め東葛地域の商業拠点となつて



おり、郊外にもショッピングモールやマンション開発が活発化しています。北部は柏の葉キャンパス駅周辺に東京大学、千葉大学、国立がん研究センター等の、教育施設、産学連携施設が在り、文教地区としての顔を持つ次世代環境都市構想が進行しています。また、スポーツの面ではJ2の



「柏レイソル」とバスケットボール女子日本リーグ機構（Wリーグ）9連覇中の「JX-ENEOSサンフラワーズ」が柏市を拠点に活動しています。

柏市消防団は昭和29年に発足し、平成17年に沼南町との合併によって再編成されました。1団本部、5方面隊、43分団、団員数631名でポンプ車20台、小型動力付積載車23台で地域の防災活動にあっています。年間の活動は、1月の消防出初式に始まり、3月には春季火災予防運動、中継放水、資機材取扱い訓練、4月は春季訓練、消防操法講習会、6月に我孫子市と共催水防訓練、柏市消防操法大会、東葛飾支部操法大会、千葉県消防操法大会と続き、今年は小型ポンプの部で第1方面第2分団（大青田）が千葉3位の成績を収めました。7月に柏まつり、8月に手賀沼花火大会の警備に出場し、秋には消防団運動会、秋季訓練、年末年始には夜間特別警戒で市内巡回広報と活動が続きます。その他、各方面ごとに放水、救護訓練と地域の行事、祭りの交通整理や警備にも出場しています。また、平成22年4月に救命率向上と地域の救急救命活動の充実を目指し結成した団員による「救命サポート隊」と平成26年に誕生した女性消防団員によって救急救命講習や地元の町会で定期講習会を行っております。また、女性消防団は平成29年に開催された全国女性消防操法大会に県代表として出場し個人の部では指揮者が最優秀賞を受賞しました。

柏市消防団は、消防団体制の充実強化や団員の確保に向けて、各種イベントや地域行事へ積極的に参加し消防団活動のPRに努め団員加入促進を図るとともに、各種訓練を通じて団員一人ひとりの質を高め「地域の防災リーダー」として住民から信頼され、親しまれる消防団を目指し、市民が安全・安心に暮らせる街づくりのため邁進してまいります。

## わが町の消防団 ② 神崎町消防団

神崎町は、成田空港から北北東に14km、利根川右岸、下総台地の北端中央部に位置し、自然と緑が豊かなまちです。基幹産業は農業ですが、近年は隣接する成田国際空港、国道356号バイパスや、東関東道と繋がっている圏央道IC等を機軸として、長期的展望に立った都市基盤の整備を進め、また、天の川公園、自然遊歩道、わくわく西の城等を活用し、町の広域拠点性をさらに強め、町民が主役のまちづくりを目標に、自然と調和のとれた「自然と人とふれあいのまちづくり」を進めています。

さて当町の消防団は遠藤栄治団長の下、2分団13部、総勢180名で構成されており、小型動力ポンプ付き積載車13台を配備。団員は『わがまちを災害から守る』という強い使命感のもと昼夜を問わず活動を行い、地域防災のリーダーとして活躍しています。

1年間の行事としては5月に消防の基礎知識・動作及び技術の取得のため、常備消防を委託している成田市消防本部から指導員の派遣をうけて、全団員を対象とした規律訓練を実施します。併せて消火栓を水源とした放水訓練を各部ごとに行い、消防技術の向上を図ります。9月には災害対応訓練として、エアertent・簡易ベッド・バルーン投光機を使用した救護所設営訓練、船舶を使用した救助訓練、チェーンソー・エンジン

カッターを使用した障害物撤去訓練等も実施し、災害時にも対応できるよう団員の能力向上に努めています。11月には秋季全国火災予防運動に合わせて火災予防パレードを実施し、地域住民の火災予防意識の向上を図り、併せて各部部长を対象として万が一の場合に適切な応急処置、人命救助が行えるよう普通救命講習会を開催し、心肺蘇生法・AEDの使用方法等の救命措置や応急手当の基礎知識の取得に務めています。



また、消防団活動のPRにも力を注いでおり、11月の町民まつりではブースを設け、水消火器を使用したミニゲームやちびっこ防火衣を使用した写真撮影を実施、1月の出初式では成田市消防本部の協力のもと、はしご車の体験試乗なども実施しております。

さらに昨年から、例年3月に開催され5万5千人の来場者を迎える「酒蔵まつり」において、巡回や体調不良者の応急救護、緊急車両の誘導や交通整理などで、地元への貢献も行っております。

神崎町消防団は実員180名と所属する香取支部でも一番小さな消防団ですが、「公益財団法人千葉県消防協会香取支部ポンプ操法大会」では平成17年度から平成29年度までの12年連続（平成23年度中止）で優秀賞をとり、今年度も県大会へ出場しました。これも消防署員及び消防団本部役員の指導のもと、出場隊操作員が仕事の終わった後に遅くまで時間を割いて、厳しい練習に耐えながら消防技術の向上・団員同士の連携を強化してきた結果であり、神崎町消防団の団結力の表れと自負しています。

しかし、昨今、就業構造の変化、若年層の都市部への流出、地域の連携意識の希薄等により消防団を取り巻く環境は大きく変化し、当町においても新規消防団員の確保が大きな課題となっており、今後入団者の一層の促進と時代に対応する組織作り・強化を図り、消防団一丸となって安心・安全の町を目指し活動していきたいと思ひます。



# 東 西 南 北

## 消防団と合同で火災防ぎょ活動と熱中症対策等の研修会を実施 山武都市広域行政組合 東消防署芝山分署

東消防署芝山分署では、総務省消防庁から助言された「消防団員の安全管理等の再徹底について」再認識を図るため、芝山町消防団員と合同で火災防ぎょ活動と熱中症対策等の研修会を行いました。

研修会には、団長をはじめ100名近くの団員と消防職員が参加し、主に、火災現場におけるフラッシュオーバー現象等の危険要因や熱中症予防・対処方法などの知識を再確認し、災害現場において事故を起こさないよう徹底を図りました。また、研修会を通じ、普段は共有が図りづらい活動内容などの意見交換を行うことができました。災害活動において万全を期すよう引き続き災害体制の確立に努めてまいります。



## 『将来の機関員を目指せ！』安全運転講習会を実施！ 柏市消防局

8月26日(月)柏市消防局では、交通事故防止対策事業の一環として、市内の自動車教習所の敷地を借用し、若年層職員に対する安全運転講習会を開催しました。本講習会は、機関員の世代交代が進むなか、次世代の機関員を養成し、交通事故防止に繋げることを目的に開催した講習会であります。

柏市消防局では、今後も安全運転講習会を開催し、迅速、安全に現場到着できるよう運転技術の向上を目指し、機関員の育成に取り組んでいきます。参加人員：20人、参加車両：4台



## 株式会社レオパレス21に対して千葉県内消防本部の総意として指導文書を交付 千葉市消防局

株式会社レオパレス21が施工した消防法令等に不適合となる建築物の早期改修等を図るため、千葉県内全31消防本部消防長の総意として、千葉県消防長会会長(千葉市消防局長)から同社に対し、「速やかな特定行政庁との協議」や「危険性が高い共同住宅の優先的改修」、「暫定的な防火措置や居住者等への注意喚起の実施」、「改修状況等の定期報告」等を指導する文書を交付しました。

本来、これらの指導は各消防本部で実施すべきと思料されますが、千葉県内は本件に伴い消防法令違反となる共同住宅やそれらを所管する消防本部が多く、個別に対応した場合に本旨である建物の改修や防火対策の実施等が遅れるおそれがあると考え、全消防本部で協議を重ね、統一した対応をとることとしたものです。

なお、同社からは本文書の指導内容を遵守し、真摯に対応していくと回答がありました。



## 東 西 千 葉 南 北 千葉工業大学の学生を対象に初の応急手当普及員講習会開催

習志野市消防本部

習志野市消防本部では、9月3日から5日にかけて千葉工業大学の学生を対象とした応急手当普及員講習会を開催いたしました。

この講習会は、同大学の必須取得単位科目の一つである「教養特別ボランティア科目」と連携を図ることで大学の単位及び応急手当普及員の資格を取得できるもので、その後学生ボランティアとして市内中学校、高校、大学（全校実施）及び事業所に出向き普通救命講習会のボランティア普及員として活動していただきます。

習志野市では昨年度普通救命講習市民受講率千葉県1位を達成しており、今年度は学生ボランティアと共に更なる受講率向上を目指して参りたいと思います。



## 東 西 北 「いちほら救急フェア」を開催

市原市消防局

市原市消防局では、令和元年9月7日（土）に、「救急医療週間」に伴う活動として、市内の大型店舗「ユニモちはら台（市原市ちはら台西）」において、「いちほら救急フェア」を開催しました。

当日は、応急手当講習、消防音楽隊によるミニコンサート、市原市消防団予防啓発部によるパネルシアターなどのほか、救急隊員による「予防救急の寸劇」による広報活動を行い、一般市民の方へ消防・救急活動について理解を深めていただきました。また、イベントを通じて、応急手当の重要性や救急車の適正利用について、楽しみながら参加していただけるイベントとなりました。



## 東 西 北 教習所において安全運転講習会を実施

夷隅郡市広域市町村圏事務組合 大原消防署

夷隅郡市広域市町村圏事務組合消防本部大原消防署では、令和元年9月26日（木）に（株）大原自動車教習所のご協力のもと、安全運転講習会を実施しました。

本講習会は、若手職員が増え機関員の養成を進めていく上での基礎知識の習得及び公私における事故防止並びに運転技術の向上を目的として、教習所教官から、車両特性についての講義、シミュレーションを使用した模擬運転、また、教官が同乗しての中型車を使用した運転技能指導を受けました。

講習会で得たことを教訓に、大原消防署ではこれからも「公私における交通事故ゼロ」を目指し、取り組んでいきます。



# 日々の動き

防災危機管理部／消防協会 共同編集

## 令和元年 10月

24日 全国女性消防団員リーダー会議

25日 第55回消防殉職者慰霊祭



## 2019年度 全国統一防火標語

**「ひとつずつ いいね！で確認 火の用心」**

## 令和元年 秋季全国火災予防運動

**令和元年11月9日(土)～11月15日(金)**

- 【重点目標】
- ①住宅防火対策の推進
  - ②乾燥時及び強風時火災発生防止対策の推進
  - ③防火火災防止対策の推進
  - ④特定防火対象物等における防火安全対策の徹底
  - ⑤製品火災の発生防止に向けた取組の推進
  - ⑥多数の者が集合する催しに対する火災予防指導等の徹底

### <表紙の説明>

#### ブルーフラッグ (山武市本須賀海水浴場) 山武支部

山武市の本須賀海水浴場が、2019年4月に海水浴場の国際環境認証「ブルーフラッグ」を取得しました。千葉県で初めての取得となります。ブルーフラッグは、環境や安全に配慮したビーチ・マリーナなどに対して、環境団体「国際環境教育基金」が厳しい審査を行い、認証するものです。ブルーフラッグを掲げるビーチは、誰でも安心・安全なビーチのしるしとして、国際的な信頼を得られているといえます。海水浴期間中、本須賀海水浴場には多くの方が海水浴に訪れ、夏の海を楽しんでいます。

